

じそんのかね

自尊の鐘



葦崎西中学校 学校だより

2020.5.25. NO1

発行責任者 校長 秋澤英俊

「人を敬い、いつくしみ、自らをたっとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお知らせします。



学校再開に向けての新しい一歩～始業式・入学式

誰もが予想していなかった新型コロナウイルスの感染拡大と、それに伴う臨時休校、長い長い2ヶ月半の休校の中で、校舎は生徒のいない静けさにじっと息をひそめて耐える日々でした。同時に生徒たちのあいさつや笑顔、教室での歓声や、教師の話真剣に聴く姿、どれもこれも当たり前の日常だと思っていた私たち教職員も、寂しさと「生徒がいてこそこの教師、学校である」ことを実感する日々であったと思います。

そして昨日、5月24日(日)によりやく学校再開への第一歩を踏み出すことができました。失われた時間があつたからこそ、残された時間を大切に思えるようになりました。これからの時間を精一杯全力で過ごしていくことが、この想定外の一年を最高のものにするのだと信じ努力していきたいと思います。今年も葦崎西中学校への温かいご支援をよろしくお願いします。始業式に校長として2・3年生に次のような話をしました。1年生は聴くことができなかったもので、掲載します。ご一読ください。

今日から本当にまちこがれていた一学期が始まりました。長い臨時休校の中で、みなさんはどんなことを思い、そして過ごしていたでしょうか。生徒のみなさんのあいさつや友達と話す笑い声、そして先生方の声が当たり前のように聞こえ、それこそが学校だと感じていたその学校が、長い間静けさに包まれていました。今日という日を全校で迎えることができ、当たり前の学校をなんだかととても大切に思えるようになりした。そして今日は一年の始まりでもあります。長い臨時休校の間、家でみなさんはどんな一学期、どんな一年にしたいと考えましたか? そして、一学期が終わった後、また一年後、どんな自分になっていたいですか。自分の中で「なりたい自分」のイメージはなんでしょう。2・3年生は昨年を振り返って「何を頑張りたいか」、また先輩たちの姿を思い出して、「どんな上級生になりたいのか」しっかりと考えましたか。

みなさんは、今回のコロナウイルスのこんなに大きな感染の拡大について予想していたでしょうか。私は生きていれば、地震や台風などの災害をはじめ、予想できないこと、つまり想定外のことがやはり起こるのだと改めて実感しました。想定外のことが起こった時、人は驚き動揺し、どうしていいかわからず不安でパニックになってしまうかもしれません。そんな時どうすればいいのか。どのようにして乗り越えていくべきなのか。

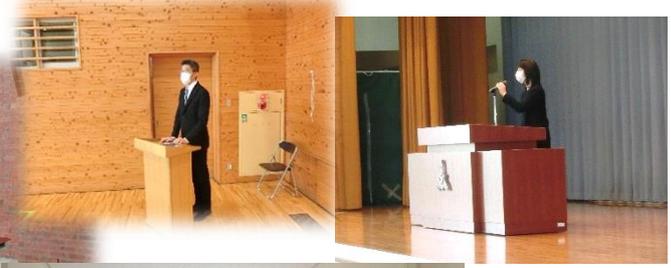
何か新しい特別な方法がすぐに見つかるとはかぎらない。やはり立ち直るために大切なことは、その時自分ができること、やらなければいけないことを自分で考え判断し、一生懸命やり続けることだと思います。今回のことであれば、手洗い、規則正しい生活、食事、不要な外出をせず3密を避けること、学校の授業再開に備えて出された課題をこつこつとやりつづけること、そんなひとつひとつのことを丁寧に積み重ねていくことで、どんなことが起こっても君たちの中に、ぐらぐらしない揺るぎない芯ができ、想定外の困難も乗り越えられる強さが育っていくのではないかと思います。

今日から始まった新学期、これからもまた、状況は変化し想定外のことが起こるかもしれない。だからこそ、今日ここに来られ、友達や先生と学校生活を送れることを幸せと思い、残された時間を大切に、自分が精一杯やれることを考え実行してほしいと思います。日々の当たり前のありがたさと積み重ねを大切にできる1学期にしてください。そしてみんなで最高の一年にしていましょ

学校再開～始業式・入学式



登校したらまず手指消毒



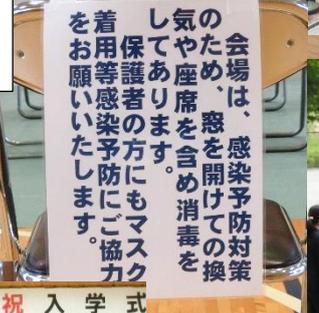
3年生が新入生のために心を込めて掃除や会場準備をしてしてくれました



手洗いが一番の対策です 習慣になるまで頑張ろう



なるべく間隔を空けて時間短縮で行った始業式



なるべく間隔を空けて待ついただいた保護者と新入生、受付でしっかりと健康チェックも受けたあと生徒は教室へ。



入学式は時間短縮で行いましたが、厳粛な雰囲気の中で、真剣に臨む新入生の姿がとても立派でした。

